

最近10年間における時間外救急患者 の推移とその考察

上市厚生病院 越 山 健 二
加 藤 恵 美 子

●地 域 概 況

上市町は富山県の東部、新川平野の中央から東南に長く、東西約26km、南北約16kmにわたる。東南部は山岳地帯をもって魚津市、宇奈月町に接し、北西部は平地帯で滑川市、富山市、立山町に接し、おおむね新川平野の中心部に位している。富山市へ約16km、魚津市へ約12km、滑川市へ約8kmの距離にある。人口は24,146人（男11,695人、女12,451人）を有し、保健所、公的病院（当院）1、私的病院1、診療所10、歯科診療所4等存在する。産業は農業、林業、家庭配置業等で農家戸数並びに世帯数は年々減少の傾向である。

●病 院 概 況

当院は昭和26年3月上市町近郊8ヵ村の組合立の国保直診病院として病床数70床をもって開設され、後、増設を重ね現在病床数281床、診療科は内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、精神科、耳鼻科、眼科、皮膚科等の9科を持つ総合病院である。又昭和39年、消防法に基づき救急指定を受ける。

1. は じ め に

近年、地域環境、家庭環境の急激な変化から、時間外救急やプライマリーケアの重要性が指摘されており、その対応について地域病院の役割や院内におけるチーム医療の重要性が指摘されている。当院の昭和44年1月1日から、昭和53年12月31日迄の10年間にお

ける時間外救急患者の調査を行い、その推移と2、3の考察をする。

2. 調 査 項 目

当院は救急指定の第1次、第2次をうけてる。

- (1) 10年間の時間外救急患者数
- (2) 10年間の時間外分娩数
- (3) 10年間の時間外手術数
- (4) 10年間の時間外救急患者時間帯
- (5) 10年間の時間外救急車による搬送者数
- (6) 3ヵ年間抽出による調査（昭和44年、49年、53年）
 - a) 時間外救急車による搬送者中の他施設転医数
 - b) 時間外救急車による搬送者中の入院患者疾患名
 - c) 土、日、祭日の救急患者数。

3. 調 査 結 果

(1) 10年間の時間外救急患者数

表1の如く10年間の推移は、昭和44年から昭和48年迄は漸次増加し、昭和49年からは減少の傾向にある。10年間の時間外救急患者数は、24,292名でこれは1日平均6.66人となる。科別で見ると表2の如く小児科の42.00%と一番多く、次いで内科25.10%、外科14.02%、産婦人科11.63%となり、これら四科がその大部分を占め、其の他は7.25%になっている。

表1 昭和44年～昭和53年迄の時間外救急患者数

年度	患者総数	内	外	整	小	産	耳	眼	皮	精	伝
昭44	1,568	619	334	43	468	51	2	6	4	41	0
45	2,184	667	475	63	589	322	3	5	4	53	3
46	2,717	551	344	145	1,213	388	6	5	17	48	0
47	2,276	478	289	92	999	309	39	15	9	46	0
48	2,942	564	406	102	1,409	349	43	12	10	47	0
49	3,113	688	365	141	1,470	314	51	27	12	45	0
50	2,522	728	321	118	925	324	22	19	10	55	0
51	2,357	689	287	94	905	291	18	27	6	40	0
52	2,345	544	287	39	1,166	243	10	16	5	35	0
53	2,268	569	298	46	1,059	234	13	12	2	35	0
合計	24,292	6,097	3,406	883	10,203	2,825	207	144	79	445	3
	百分率 (%)	25.10	14.02	3.63	42.00	11.63	0.86	0.59	0.33	1.83	0.01

表2 昭和44年～昭和53年迄の時間外救急患者数

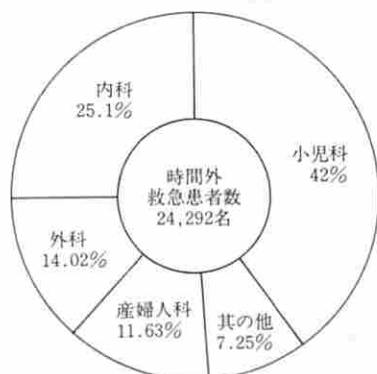
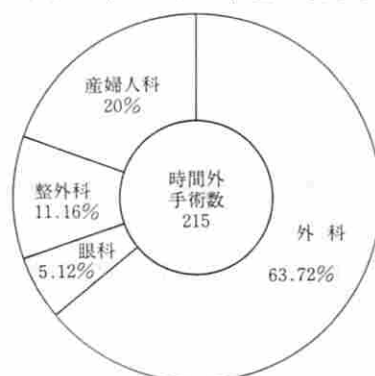


表3 昭和44年～昭和53年迄の分娩数及び手術数

年度	分娩数	手術数	外	整	産	眼
昭44	23	26	13	11	0	2
45	127	28	14	3	7	4
46	133	25	14	5	6	0
47	159	21	11	2	8	0
48	176	17	14	0	2	1
49	170	23	15	2	6	0
50	187	27	16	0	7	4
51	170	17	17	0	0	0
52	151	8	6	0	2	0
53	129	23	17	1	5	0
合計	1,425	215	137	24	43	11
		百分率 (%)	63.72	11.16	20.00	5.12

表4 昭和44年～昭和53年迄の時間外手術数



(2) 10年間の時間外分娩数

表3の如く10年間の時間外分娩数は1,425である。これは1ヵ月平均11.88回となる。昭和44年に分娩数が少ないのは、産婦人科医の交代した時期であるためである。時間外分娩の1年平均の142件は、10年間の全分娩の1年平均268件の53.17%となり、時間外分娩が全分娩の5割を占めている。

(3) 10年間の時間外手術数

表3の如く10年間の時間外手術数は215で、これは1ヵ月平均1.8件となる。科別で見ると表4の如く外科63.72%、次いで産婦人科20.00%、整形外科11.16%、眼科5.12%である。

手術疾患名では外科では急性虫垂炎が一番多く、次いで消化管出血、イレウス等である。

整形外科では外傷による開放性骨折、産婦人科では帝王切開術である。眼科では午後5時以後の翼状片の手術である。

時間外手術数の1年平均21.5件は、10年間の全手術の1年平均263件の8.17%となり、時間外手術は全手術の約1割を占めている。

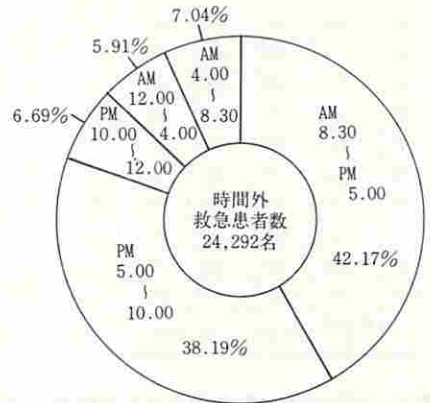
(4) 10年間の時間外救急患者時間帯

表5の如く、10年間の時間外救急患者の来院時を5段階に分け、AM8時30分～PM5時、PM5時～PM10時、PM10時～PM12時、AM12時～AM4時、AM4時～AM8時30分とした。分娩を5段階の時間帯で見ると、PM5時～PM10時の時間帯に34.81%と一番分娩が多く、次いで朝の4時～8時30分の時間帯で24%となっている。このような時間帯に助産婦職員の充足が考えられる。又休日では表6の如くAM8時30分～PM5時の間に一番多く来院しており、42.17

表5 昭和44年～昭和53年迄の時間外救急患者時間帯(含分娩)

年度	患者総数	AM8.30～ PM5.00	PM5.00～ ～10.00	PM10.00 ～12.00	AM12.00 ～4.00	AM4.00 ～8.30
昭44	1,568	530	797	77	80	84
45	2,184	633	986	233	143	189
46	2,717	1,145	974	181	173	244
47	2,276	948	914	138	144	132
48	2,942	1,218	1,087	220	189	228
49	3,113	1,501	1,127	149	149	187
50	2,522	1,203	887	155	132	145
51	2,357	935	921	186	130	185
52	2,345	1,031	826	165	147	176
53	2,268	1,101	757	120	148	142
合計	24,292	10,245	9,276	1,624	1,435	1,712
	百分率	42.17%	38.19%	6.69%	5.91%	7.04%
分娩	1,425	119	496	213	255	342
	百分率	8.35%	34.81%	14.95%	17.89%	24.00%

表6 昭和44年～昭和53年迄の時間外救急患者時間帯



%となっている、次いでPM 5時～10時の38.19%であり、即ちAM 8時30分からPM10時の時間帯に80%が来院していることになる。

(5) 10年間の時間外救急車による搬送者数

表7の如く10年間の時間外救急車による搬

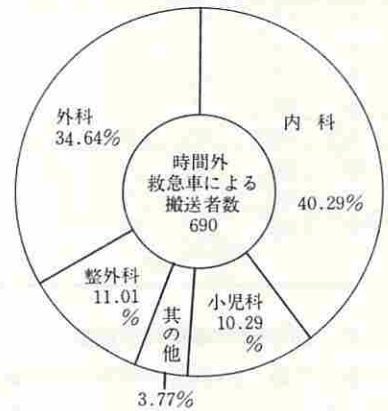
表7 昭和44年～53年迄の時間外救急車による搬送者数

年度	総数	内	外	整	小	産	耳	眼	精	皮
昭44	31	14	12	1	4	0	0	0	0	0
45	38	15	15	3	2	1	0	0	2	0
46	50	19	19	6	4	2	0	0	0	0
47	47	16	16	9	3	2	0	0	1	0
48	80	22	38	8	6	1	4	0	1	0
49	85	38	24	11	7	1	2	0	2	0
50	105	40	42	11	11	0	1	0	0	0
51	79	32	26	12	8	0	1	0	0	0
52	97	43	30	9	12	0	0	0	3	0
53	78	39	17	6	14	0	1	0	1	0
合計	690	278	239	76	71	7	9	0	10	0
	百分率(%)	40.29	34.64	11.01	10.29	1.01	1.31	0	1.45	0

送者数は690人である、これは1ヵ月平均5.75人となる。

科別で見ると表8の如くで内科が40.29%と一番多く、次いで外科34.64%、整形外科11.01%、小児科10.29%となる。産婦人科は1.01%と少ない。

表8 昭和44年～昭和53年迄の時間外救急車による搬送者数



(6) 3ヵ年間抽出による(昭和44年、49年、53年)

a) 時間外救急車による搬送者中の他施設転医数

表9 昭和44年、49年、53年の3年間の時間外救急車による搬送者の他施設転医数

年度	総数	帰宅	転医	入院
昭44	31	15	1	15
49	85	26	5	54
53	78	24	12	42
合計	194	65	18	111
	百分率	33.50%	9.28%	57.22%

表9の如く昭和44年、49年、53年の3ヵ年抽出による時間外救急車による搬送者中で転医した数は194名中、18名で9.28%である。入院した数は57.22%、治療をうけて帰宅したものが33.50%となっている。即ち、表10の如く救急車搬送者の6割は入院、3割が帰宅、転医が1割になっている。

b) 時間外救急車による搬送車中の入院患者疾患名。

先に述べた昭和44年、49年、53年の3ヵ年抽出による57.22%の入院患者の疾患名は表11の如くである。

内科で一番多いと思われるのは、脳血管症、心筋梗塞、心不全、腎結石、次いで糖尿病、尿路感染症、食中毒等である。

外科では交通事故による外傷、急性虫垂炎、イレウス、消化管出血、火傷等ある。

整形外科は骨折、外傷等である。小児科は自家中毒症、高熱によるけいれん、腸重積症、急性扁桃炎、喘息等である。産婦人科では切迫流産が一番多く、次いで妊娠中毒症である。精神科では精神分裂症、酒精中毒症等である。

c) 土、日、祭日の救急患者数

昭和44年、49年、53年の3ヵ年抽出による、土、日、祭日の救急患者数は表12の如くで、3,686名である。この3,686名は、3ヵ年の時間外救急患者6,949名で53.04%にあたる。即ち、時間外救急患者の5割が土、日、祭日に来院していることになる。

表12 昭和44年、49年、53年の3ヵ年の土、日、祭日の救急患者数

年度	患者数	内	外	整	小	産	耳	眼	皮	精
昭44	744	219	153	28	302	22	1	3	3	13
49	1,633	219	184	65	902	141	18	9	6	17
53	1,309	270	166	23	750	71	7	7	1	14
合計	3,686	780	503	116	1,954	234	26	19	10	44
	百分率 (%)	21.16	13.65	3.15	53.01	6.35	0.71	0.52	0.27	1.18

表10 昭和44年、49年、53年の3年間の時間外救急車による搬送者中の他施設転医数

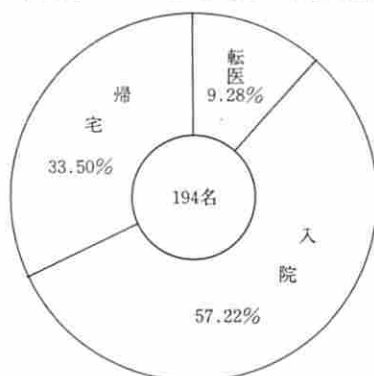
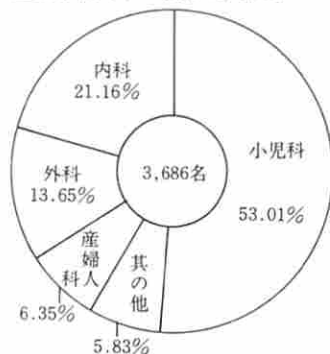


表11 昭和44年、49年、53年の3年間の時間外救急車による搬送者中の入院患者疾患名

内科	外科	整形外科	小児科	産婦人科	精神科
<ul style="list-style-type: none"> 脳血管症 心筋梗塞 心不全 腎結石 気管支喘息 糖尿症 食中毒 尿路感染症 	<ul style="list-style-type: none"> 外傷 急性虫垂炎 イレウス 消化管出血 火傷 	<ul style="list-style-type: none"> 骨折 	<ul style="list-style-type: none"> 自家中毒症 けいれん 腸重積症 急性扁桃炎 喘息 	<ul style="list-style-type: none"> 切迫流産 妊娠中毒症 	<ul style="list-style-type: none"> 精神分裂症 酒精中毒症

表13 昭和44年、49年、53年の3年間の土、日、祭日の救急患者数



又、土、日、祭日の救急患者数を表13の如く科別に見れば、一番多いのは小児科で53.01%、次いで、内科21.16%で、外科13.65%、産婦人科6.35%、整形外科3.15%となっている。この土、日、祭日の救急患者が時間外患者の半数を占めること、又小児科患者が

その5割と多いこと等が特に目立つ事である。

4. 考 察

(1) 以上の事から時間外救急患者が上市の小地域でもまとめてみると案外多い事である。そしてその年次推移を見ると一時増加の傾向があったが最近では減少の傾向にある、これは地域の医療施設（開業医）との関連が大きく影響していると思われる、そのほかにも患者の疾病に対する意識や、施設の対応、時代の推移に伴う疾病の変化等も考えられる。

(2) 次は小児科が圧倒的に多く、しかも救急車による搬送者が案外少ない事である。これは軽症が多いことを示しており、核家族、共稼ぎ等の家庭環境によるものと思われる。機会あるごとに母親並びに家族に対して、今日問題になっているプライマリーケアの理解が必要であると思われる。

(3) 更に内科、外科の患者には重症者が多く、救急車による搬送者が多いことである。脳血管症、心筋梗塞、イレウス、急性虫垂炎、消化管出血等、救命救急の意味から、見のがすことの出来ないことである。

この対応には人や設備にも限界があると思われるが、少なくとも看護職員はどんな重症者にも対応出来る最少限のI.C.U、C.C.Uの技術、知識を身につけておく事が必要と思われる。

(4) 産婦人科の時間外救急患者が案外少なく救急車による搬送者もまれであるが、分娩については、時間外が全分娩の半数を占め、祝祭休日にも関係なく行われている。尚時間帯では準夜、深夜に多くみられ助産婦職員の配置に対して貴重なデータと思われる。

最後に最近週休2日制が論議されているが病院における週休2日制の導入は以上の点からも慎重でなければならないと思われる。医療が高度化され、分科の傾向が強い中で小地域の病院の果す役割は重要と思われるが技術、設備、人員の配置、その効率、財政など多くの問題がある。これには各地域の医療の構造と機能を再検討し、地域医療システム化の模索が真剣になされなければならないのでなろうかと思われる。

5. お わ り に

過去10年間にわたる粗雑な調査であるが地域のニーズに対応するためにまとめて見たがこれからも地域住民のニーズにこたえるよう救急医療につとめたいと思っている。

時間外救急患者の実態をしり、地方病院の今後の対応について、二、三の考察を行い発表した。

この調査にあたって当院の附属准看護学院の学生に協力して頂き厚く御礼申し上げる。